

## 城下町地区の景観ガイドライン改定における建築年代別デザインコードの抽出と助成基準のあり方

正会員      〇清川 智裕\* 同      姫野由香\*\*  
同              後藤 大輝\* 同      宇土沙希\*

城下町              景観ガイドライン      デザインコード  
助成基準

## 1. 研究の背景と目的

## 1. 1 研究の背景

日本は戦後、高度経済成長等による国土開発や無秩序な都市化に対して、歴史的な町並みを保存するために、1975年に文化財保護法が改正され、伝統的建造物群保存地区制度が設けられた<sup>1)</sup>。また、重要伝統的建造物群保存地区(以下、重伝建地区)に選定されていない一部自治体では自主条例制定等の自主的な取組を行い、景観の整備・保全に努めてきた。

一方で、重伝建地区に選定されておらず、歴史的な町並みが残るものの、多様な建築年代の建築物が混在している地区では、景観の目指すべき方向性を示すことが困難な場合もある。

林ら<sup>2)</sup>の研究では、地区の景観特性や建築様式などを適確に反映していない助成基準は、運用に支障を来す要因となると指摘している。つまり、適切な助成審査を行うには、地区の特性に即したデザインコード<sup>注1)</sup>を抽出することが重要であることがわかる。

ガイドラインに多様な建築年代のデザインコードが示されている事例として、東京都台東区の「谷中地区景観形成ガイドライン」がある<sup>3)</sup>。谷中地区景観形成ガイドラインでは、江戸期の和風町屋、大正期の看板建築が特徴の洋風町屋、明治期の屋敷、昭和期の木質アパートなど、各年代のデザインコードが示されている。

## 1. 2 研究の対象地と目的

大分県竹田市城下町地区(以下、竹田城下町地区)は、重伝建地区に選定されておらず、多様な建築年代の建築物が混在している。一方で、景観法制定以前から自主条例に基づいた「竹田市地区町並み形成景観・修景ガイドライン」(以下、竹田修景ガイドライン)<sup>4)</sup>を運用し、修景に対する助成を行なってきた。また、竹田市景観計画の景観形成の方針の1つに「各時代の建物の良さを引き継ぐ」<sup>5)</sup>とある。しかし、竹田修景ガイドラインは、この計画の策定以前に定められており、多様な建築年代の建築物が混在しているという現状に十分適したガイドラインとはいえない<sup>注2)</sup>。

そこで本研究では、竹田市景観計画において「町並み景観エリア」として景観形成重点地区に指定されている竹田城下町地区に着目する。さらに、本稿では町屋が立地する町人地と武家屋敷が立地する武家地の年代別デザインコードを抽出するため、既往研究<sup>6)</sup>で明らかとなった過去の

土地利用が町人地及び準町人地であった地区を町人地ゾーン、武家地であった地区を武家地ゾーンとし、この2つを研究対象地とする(図1)。町人地ゾーンと武家地ゾーンにおいて江戸期、明治期、大正期、昭和前期、昭和後期以降の各年代のデザインコードを抽出し、今後の助成基準を提案することを目的とする。

## 2. 研究の方法

本研究では、建築年代が特定できる建築物<sup>注3)</sup>を対象に、現地調査を行う。次に、町人地ゾーンと武家地ゾーンにおける江戸期、明治期、大正期、昭和前期、昭和後期以降の各年代のデザインコードを抽出する(3章)。3章の調査結果を基に、ゾーンごとに各年代のデザインコードに即した助成基準を提案する(4章)。

## 3. デザインコードの抽出

文献<sup>4)7)</sup>と竹田城下町地区内で新築された建築物の建築計画概要書を基に、特定できる建築物<sup>注4)</sup>547棟を調査対象とした。現地調査は、2024年8月～10月に実施し、対象建築物の外観意匠を記録した。本章では、竹田修景ガイドライン<sup>4)</sup>で建築物の形態・意匠として規定されている「屋根」・「外壁」・「出入り口・窓」の外観構成要素に着目し、町人地ゾーンと武家地ゾーンにおける各年代の建築物のデザインコードを明らかにする。

また、547党の対象建築物の外観構成要素の項目(表1の1～19)を整理し、各項目の衣装がみられる建築物の割

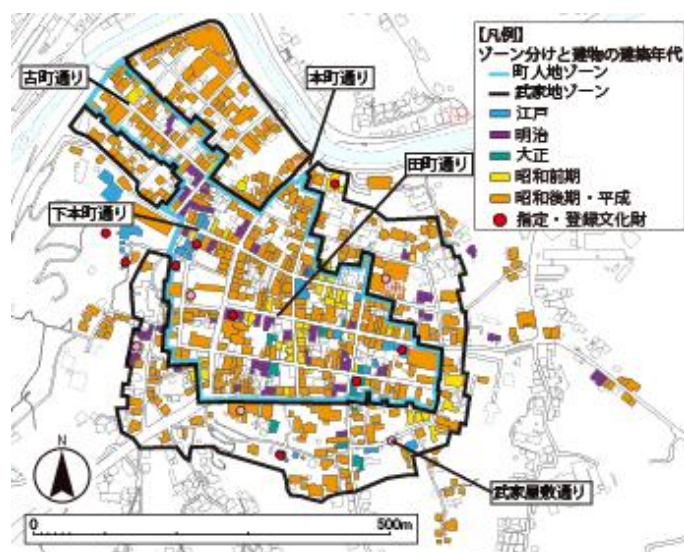


図1 研究対象地

合を調査した。その結果を、年代別に町人地ゾーンと武家地ゾーンで集計し表1に示す<sup>注5)</sup>。外観構成要素の各項目において、上位3位(15%未満を除く)の要素をデザインコードとして、以下に考察する。

【屋根】表1①②より、形状①について、町人地ゾーンにおける全ての年代の建築物の50%前後が切妻である。一方で、明治期以降は陸屋根(9.7%~17.6%)、複合屋根(20.6%~42.9%)も一定数見られる。これは、建物用途の多様化により、それぞれの用途に適した屋根形状が採用されたと考えられる。

葺き方②は、ゾーンに関係なく全ての年代の建築物の過半数が瓦葺きである。また、町人地ゾーンの江戸期、明治期、昭和前期に加え、勾配屋根とする竹田修景ガイドライン策定後の昭和後期平成でも看板建築が一定数(5.9%~12.9%)見られる。形状①が明治期以降、多様化している傾向も勘案すると、近代的な建築物に見せるために陸屋根、看板建築等が採用されたと考える。

【外壁】表1、仕上げ材③について、町人地ゾーンにおける江戸期、大正期と武家地ゾーンの江戸期の建築物の40%以上が漆喰である。一方で、ゾーンに関係なく明治期以降、新素材である吹付・サイディングの使用が16.7%~66.7%程度見られる。これは、新建材の普及により維持管理の容易さやコスト面が考慮され、伝統的な漆喰から新素材へと移行する傾向が強まったと考えられる。また、ゾーンに関係なく、明治期以降の建築物の17.6%~50.0%程度で複合仕上げが見られる。これは、建築物の経年劣化に伴う修繕や修景において、新旧の素材や技術が組み合わせられたことが要因であると考えられる。

【出入り口】表1⑤⑥⑦より、意匠⑤について、ゾーンに関係なく全ての年代の建築物の40.0%以上が戸又は格子戸である。

素材⑥について、町人地ゾーンでは江戸期から昭和前期の建築物の40.0%以上が木製であり、昭和後期平成の建築物の61.4%がアルミ製である。また、武家地ゾーンでは、江戸期の建築物の100.0%が木製であり、明治期以降の建築物の66.7%以上がアルミ製である。

色⑦について、町人地ゾーンの全ての年代と武家地ゾーンの江戸期、明治期、昭和前期、昭和後期平成の建築物の41.0%以上が茶色であり、他の色より多く見られる。これは、新たな技術の台頭による耐久性やメンテナンス性の向上に加え、現状の竹田修景ガイドラインで「茶系統とする」と指定されていることから、町並みへの配慮を重視した結果であると考えられる。

【窓】表1⑧から⑭より、1階及び2階窓の意匠⑧⑭について、町人地ゾーンの全ての年代と武家地ゾーンの明治期、大正期、昭和後期平成の建築物の42.9%以上がサッシである。また、1階窓について武家地ゾ

表1 町人地・武家地における年代別外観構成要素

	年代 ゾーン名 サンプル数	江戸期		明治期		大正期		昭和前期		昭和後期平成	
		町人地 16	武家地 4	町人地 34	武家地 7	町人地 7	武家地 4	町人地 31	武家地 12	町人地 210	武家地 169
形状①	切妻	53.3%	100.0%	52.9%	57.1%	42.9%	50.0%	45.2%	33.3%	47.1%	37.5%
	複雑	6.7%	—	—	—	—	—	—	—	0.5%	3.0%
	入母屋	33.3%	—	8.8%	—	—	25.0%	12.9%	25.0%	1.4%	6.5%
	寄棟	—	—	2.9%	—	—	—	—	—	2.4%	8.8%
	陸屋根	—	—	14.7%	—	14.3%	—	9.7%	—	17.6%	8.9%
	片流れ	—	—	—	—	—	—	—	—	3.3%	3.6%
	複合	6.7%	—	20.6%	42.9%	42.9%	25.0%	29.0%	41.7%	21.4%	22.6%
	その他	—	—	—	—	—	—	3.2%	—	6.2%	8.9%
	瓦	93.3%	100.0%	64.7%	85.7%	71.4%	100.0%	51.6%	100.0%	50.5%	55.4%
	スレート	—	—	11.8%	—	—	—	25.8%	—	18.6%	31.0%
葺き方②	看板建築	6.7%	—	5.9%	—	—	—	12.9%	—	12.4%	1.8%
	複合	—	—	2.9%	—	14.3%	—	3.2%	—	1.0%	3.0%
	その他	—	—	14.7%	14.3%	14.3%	—	6.5%	—	17.6%	10.1%
仕上げ材③	漆喰	40.0%	50.0%	29.4%	14.3%	57.1%	25.0%	22.6%	25.0%	9.5%	4.2%
	漆喰+木	26.7%	—	8.8%	—	—	—	9.7%	—	1.9%	2.4%
	土壁	6.7%	25.0%	—	—	—	—	3.2%	8.3%	1.4%	3.0%
	吹付・サイディング	13.3%	—	41.2%	57.1%	—	25.0%	22.6%	16.7%	55.2%	66.7%
	複合	13.3%	25.0%	17.6%	28.6%	42.9%	50.0%	35.5%	41.7%	29.0%	19.0%
	その他	—	—	2.9%	—	—	—	6.5%	8.3%	2.9%	4.8%
	白	60.0%	50.0%	38.2%	71.4%	57.1%	50.0%	44.3%	50.0%	44.3%	50.0%
	茶	20.0%	50.0%	23.5%	14.3%	14.3%	25.0%	16.1%	8.3%	19.5%	23.2%
	黒	13.3%	—	35.3%	14.3%	28.6%	25.0%	38.7%	33.3%	31.0%	17.3%
	その他	6.7%	—	2.9%	—	—	—	—	8.3%	5.2%	9.5%
意匠⑤	戸	53.3%	75.0%	41.2%	14.3%	14.3%	25.0%	29.0%	16.7%	30.0%	28.6%
	戸(枠のみ)	—	—	17.6%	—	14.3%	—	3.2%	25.0%	17.1%	14.3%
	格子戸	26.7%	25.0%	17.6%	57.1%	14.3%	50.0%	29.0%	16.7%	20.5%	24.4%
	複合	20.0%	—	17.6%	28.6%	57.1%	—	38.7%	25.0%	26.2%	28.6%
	その他	—	—	5.9%	—	—	25.0%	—	16.7%	6.2%	4.8%
素材⑥	木	60.0%	100.0%	52.9%	14.3%	42.9%	—	41.9%	8.3%	23.3%	13.7%
	アルミ	20.0%	—	23.5%	85.7%	—	100.0%	38.7%	66.7%	61.4%	76.8%
	複合	20.0%	—	23.5%	—	57.1%	—	19.4%	8.3%	9.5%	8.3%
	その他	—	—	—	—	—	—	—	16.7%	5.7%	1.2%
	白	—	—	2.9%	—	14.3%	—	—	25.0%	2.4%	1.8%
色⑦	黒	73.3%	100.0%	64.7%	57.1%	71.4%	75.0%	58.1%	16.7%	41.0%	48.4%
	茶	—	—	2.9%	—	—	25.0%	6.5%	8.3%	11.0%	10.1%
	シルバー	13.3%	—	2.9%	28.6%	—	—	6.5%	16.7%	19.5%	20.8%
	複合	—	—	5.9%	14.3%	—	—	12.9%	25.0%	9.5%	10.1%
	その他	13.3%	—	20.6%	—	14.3%	—	16.1%	8.3%	16.7%	7.7%
意匠⑧	意匠なし	13.3%	—	20.6%	—	14.3%	—	16.1%	8.3%	15.2%	7.1%
	サッシ	66.7%	25.0%	64.7%	71.4%	85.7%	100.0%	64.5%	58.3%	75.7%	64.5%
	格子	13.3%	75.0%	8.8%	14.3%	—	—	9.7%	25.0%	4.8%	4.2%
	複合	—	—	5.9%	14.3%	—	—	9.7%	8.3%	3.8%	3.6%
	その他	6.7%	—	—	—	—	—	—	—	0.5%	0.6%
素材⑨	意匠なし	13.3%	—	20.6%	—	14.3%	—	16.1%	8.3%	15.7%	7.1%
	木	40.0%	75.0%	38.2%	14.3%	57.1%	25.0%	32.3%	33.3%	12.4%	10.1%
	アルミ	46.7%	—	35.3%	71.4%	28.6%	75.0%	48.4%	41.7%	68.6%	79.2%
	鉄	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	複合	—	25.0%	5.9%	14.3%	—	—	3.2%	16.7%	3.3%	3.6%
色⑩	意匠なし	13.3%	—	20.6%	—	14.3%	—	16.1%	8.3%	15.7%	7.1%
	白	—	—	2.9%	—	14.3%	—	—	25.0%	2.4%	1.8%
	黒	73.3%	100.0%	64.7%	57.1%	71.4%	75.0%	58.1%	16.7%	41.0%	48.4%
	茶	—	—	2.9%	—	—	25.0%	6.5%	8.3%	11.0%	10.1%
	シルバー	13.3%	—	2.9%	28.6%	—	—	6.5%	16.7%	19.5%	20.8%
意匠⑪	意匠なし	—	—	20.6%	—	14.3%	—	16.1%	8.3%	14.8%	7.1%
	意匠なし	53.3%	25.0%	47.1%	71.4%	71.4%	50.0%	54.8%	66.7%	57.1%	62.5%
	格子	33.3%	50.0%	26.5%	28.6%	14.3%	50.0%	19.4%	25.0%	22.4%	15.5%
	戸	6.7%	—	—	—	—	—	—	—	1.0%	3.6%
	てすり	—	—	5.9%	—	—	—	6.5%	—	1.4%	3.0%
素材⑫	意匠なし	—	—	20.6%	—	14.3%	—	16.1%	8.3%	14.8%	7.1%
	意匠なし	53.3%	25.0%	47.1%	71.4%	71.4%	50.0%	54.8%	66.7%	57.1%	62.5%
	木	33.3%	25.0%	29.4%	14.3%	14.3%	25.0%	25.8%	8.3%	15.7%	8.9%
	アルミ	—	25.0%	—	14.3%	—	—	3.2%	8.3%	10.0%	15.5%
	竹	6.7%	25.0%	2.9%	—	—	25.0%	—	—	—	0.6%
色⑬	意匠なし	—	—	2.9%	—	—	—	—	—	0.5%	1.8%
	複合	6.7%	—	—	—	—	—	—	8.3%	1.9%	3.6%
	意匠なし	—	—	20.6%	—	14.3%	—	16.1%	8.3%	14.8%	7.1%
	意匠なし	53.3%	25.0%	47.1%	71.4%	71.4%	50.0%	54.8%	66.7%	57.1%	62.5%
	茶	40.0%	75.0%	32.4%	28.6%	14.3%	—	29.0%	25.0%	22.4%	20.8%
意匠⑭	意匠なし	—	—	—	—	—	50.0%	—	—	1.0%	1.8%
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	4.8%	6.5%
	意匠なし	26.7%	50.0%	17.6%	14.3%	—	50.0%	6.5%	25.0%	9.0%	25.6%
	サッシ	46.7%	50.0%	70.6%	71.4%	42.9%	50.0%	64.5%	25.0%	80.0%	66.7%
	格子	6.7%	—	8.8%	14.3%	57.1%	—	19.4%	16.7%	4.8%	4.8%
素材⑮	意匠なし	—	—	2.9%	—	—	—	9.7%	33.3%	6.2%	3.0%
	その他	20.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	意匠なし	26.7%	50.0%	17.6%	14.3%	—	50.0%	6.5%	25.0%	9.0%	25.6%
	木	33.3%	50.0%	17.6%	14.3%	42.9%	—	32.3%	25.0%	8.1%	7.1%
	アルミ	33.3%	—	58.8%	71.4%	57.1%	50.0%	45.2%	25.0%	79.0%	64.5%
色⑯	鉄	6.7%	—	2.9%	—	—	—	3.2%	—	—	—
	複合	—	—	2.9%	—	—	—	12.9%	25.0%	3.8%	3.0%
	意匠なし	26.7%	50.0%	17.6%	14.3%	—	50.0%	6.5%	25.0%	9.0%	25.6%
	白	—	—	—	—	—	—	3.2%	16.7%	3.3%	3.6%
	黒	66.7%	50.0%	58.8%	85.7%	71.4%	25.0%	64.5%	16.7%	44.8%	35.1%
意匠⑰	茶	6.7%	—	8.8%	—	—	25.0%	3.2%	8.3%	7.6%	8.9%
	シルバー	—	—	8.8%	—	28.6%	—	16.1%	16.7%	24.3%	21.4%
	複合	—	—	5.9%	—	—	—	6.5%	16.7%	9.5%	5.4%
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	1.4%	—
	意匠なし	26.7%	—	17.6%	14.3%	—	50.0%	6.5%	25.0%	9.0%	25.6%
素材⑱	意匠なし	26.7%	50.0%	44.1%	57.1%	57.1%	25.0%	35.5%	58.3%	51.0%	42.9%
	格子	33.3%	25.0%	14.7%	—	28.6%	—	19.4%	8.3%	8.6%	5.4%
	戸	—	—	—	—	—	25.0%	—	—	0.5%	3.0%
	てすり	6.7%	—	14.7%	28.6%	14.3%	—	32.3%	8.3%	26.2%	17.3%
	虫籠窓	6.7%	—	2.9%	—	—	—	—	—	—	—
色⑲	複合	—	25.0%	5.9%	—	—	—	3.2%	—	3.3%	6.0%
	その他	—	—	—	—	—	—	3.2%	—	1.4%	—
	意匠なし	26.7%	—	17.6%	14.3%	—	50.0%	6.5%	25.0%	9.0%	25.6%
	意匠なし	26.7%	50.0%	44.1%	57.1%	57.1%	25.0%	35.5%	58.3%	51.0%	42.9%
	茶	13.3%	50.0%	32.4%	28.6%	28.6%	25.0%	45.2%	8.3%	30.5%	22.6%
その他	黒	—	—	2.9%	—	—	—	3.2%	—	3.3%	2.4%
	茶	6.7%	—	2.9%	—	14.3%	—	9.7%	8.3%	6.2%	6.5%

ーの江戸期の建築物の 75.0%が格子窓である。

素材⑨⑩について、町人地ゾーンの江戸期から昭和前期の建築物の 60.0%以上が木製又はアルミ製であり、昭和後期平成の建築物の 65.0%以上がアルミ製である。また、武家地ゾーンでは江戸期の建築物の 42.9%以上が木製であり、明治期、大正期、昭和後期平成の建築物の 65.0%以上がアルミ製である。

色⑩⑪について町人地ゾーンの全ての年代の建築物の 41.0%が茶色であり、茶色は他の色よりも多く見られ、出入口と同様に町並みへの配慮を重視した結果であると考えられる。

また、1階・2階窓周りの意匠⑩⑪は武家地ゾーンの江戸期を除き、両ゾーンで過半数が窓なし、意匠なしであるが、両ゾーンで 1 階窓周りには格子(14.3%～50.0%)が、2 階窓周りには格子、手すり(16.6%～51.7%)が一定数見られる。

また、表 2 より、町人地・武家地ゾーンの年代ごとのデザインコードはそれぞれ、大きく二分できると考える。

町人地ゾーンにおいて、江戸期から大正期では、屋根は瓦葺きの切妻、外壁は漆喰仕上げ、木製の出入口、2 階窓周りの格子が共通のデザインであると考ええる。昭和前期以降では、屋根は瓦葺き、スレート葺き又は看板建築の切

また、武家地ゾーンにおいて、江戸期では屋根は瓦葺きの切妻、外壁は漆喰仕上げ、木製の出入口、1 階窓の木製格子、2 階窓周りの格子が共通のデザインであると考ええる。明治期以降では、屋根は瓦又はスレート葺きの切妻、外壁は吹付・サイディング仕上げ、アルミ製の出入口、1 階窓のアルミ製サッシ、2 階窓周りの手すり又は戸袋が共通のデザインであると考ええる。

## 4. 助成基準の提案

### 4. 1 現状のガイドラインの課題

竹田城下町地区では、「竹田市歴史的町並み景観形成等補助金交付要綱」(2005)及び竹田市修景ガイドライン(1997)<sup>4)</sup>に基づき、助成が行われている。しかし、竹田市修景ガイドラインには、町人地ゾーンと武家地ゾーンにおけるデザインコード、及び屋根の形状、外壁の仕上げ材、出入口・建具の素材に関する具体的な指定は無い。

### 4. 2 助成基準の提案

4-1 で述べた竹田修景ガイドラインで具体的な指定がない項目(表 2：青)について、各年代ごとのデザインコード(表 2)を参照しながら今後の助成基準を表 3 にまとめた。

【町人地ゾーン】江戸期、明治期、大正期、昭和前期、昭和後期および平成に建てられた建築物の助成基準として、

表 2 竹田修景ガイドラインと町人地・武家地ゾーンにおける各年代のデザインコード











妻と陸屋根、外壁は吹付・サイディング仕上げ、木製又はアルミ製の出入口、2 階窓周りの手すりが共通のデザインであると考ええる。

「屋根は瓦葺きの切妻又は入母屋を推奨する。但し、昭和前期以降はスレート葺きや看板建築、陸屋根も可とする。」とする。また、「外壁は漆喰仕上げを推奨する。他に、吹

外観構成要素		竹田修景ガイドライン	町人地ゾーン					武家地ゾーン				
			江戸期	明治期	大正期	昭和前期	昭和後期平成	江戸期	明治期	大正期	昭和前期	昭和後期平成
屋根	形状	勾配屋根	切妻/入母屋	切妻/複合	切妻/複合	切妻/複合	切妻/複合/陸屋根	切妻	切妻/複合	切妻/入母屋/複合	複合/切妻/入母屋	切妻/複合
	葺き方	瓦葺き	瓦葺き	瓦葺き	瓦葺き	瓦葺き/スレート	瓦葺き/スレート/その他	瓦葺き	瓦葺き	瓦葺き	瓦葺き	瓦葺き/スレート
外壁	仕上げ材	周囲の町並みと調和した落ち着いた材質感のあるもの	漆喰/漆喰+木	吹付・サイディング/漆喰/複合	漆喰/複合	複合/漆喰/吹付・サイディング	吹付・サイディング/複合	漆喰/土壁/複合	吹付・サイディング/複合	複合/漆喰/吹付・サイディング	複合/漆喰/吹付・サイディング	吹付・サイディング/複合
	色	白色、灰色、茶色系統	白/茶	白/複数/茶	白/複数	白/複数/茶	白/複数/茶	白/茶	白	白/茶/複数	白/複数	白/茶/複数
出入口	意匠	伝統的様式を基本	戸/格子戸/複数	戸/戸(袴のみ)/格子戸/複数	複数	複数/戸/格子戸	戸/複数/格子戸	戸/格子	格子戸/複数	格子戸/戸/複数	戸(袴のみ)/複数/戸/格子戸/その他	戸/複数/格子戸
	素材	周囲の町並みと調和した落ち着いた材質感のあるもの	木/アルミ/複数	木/アルミ/複数	複数/木	木/アルミ/複数	アルミ/木	木	アルミ	アルミ	アルミ/その他	アルミ
	色	黒色、茶色系統	茶	茶/その他	茶	茶/その他	茶/シルバー/その他	茶	茶/シルバー	茶/黒	白/複数/茶/シルバー	茶/シルバー
窓	1階窓	意匠	伝統的様式を基本	サッシ	サッシ/窓なし	サッシ	サッシ/窓なし	サッシ/窓なし	格子/サッシ	サッシ/複数	サッシ	サッシ/格子
		素材	周囲の町並みと調和した落ち着いた材質感のあるもの	アルミ/木	木/アルミ/窓なし	木/アルミ	アルミ/木/窓なし	アルミ	木/複数	アルミ	アルミ/複数	アルミ/木/複数
		色	黒色、茶色系統	茶	茶/窓なし	茶	茶/窓なし	茶/シルバー/窓なし	茶	茶/シルバー	茶/黒	白/複数/茶/シルバー
	1階窓周り	意匠	伝統的様式を基本	窓なし/格子	窓なし/格子/窓なし	窓なし	窓なし/格子/窓なし	窓なし/格子	格子/窓なし/格子/複数	窓なし/格子	窓なし/格子	窓なし/格子
		素材	周囲の町並みと調和した落ち着いた材質感のあるもの	窓なし/木	窓なし/木/窓なし	窓なし	複数/木/窓なし	窓なし/木	木/竹/窓なし/複数	窓なし	窓なし/木/複数	窓なし
		色	黒色、茶色系統	窓なし/茶	窓なし/茶/窓なし	窓なし	窓なし/茶/窓なし	窓なし/茶	茶/窓なし	窓なし/茶	黒/窓なし	窓なし/茶
	2階窓	意匠	伝統的様式を基本	サッシ/窓なし/その他	サッシ/窓なし	格子/サッシ	サッシ/格子	サッシ	窓なし/サッシ	サッシ	窓なし/サッシ	複数/窓なし/サッシ
		素材	周囲の町並みと調和した落ち着いた材質感のあるもの	木/アルミ/窓なし	アルミ/窓なし/木	アルミ/木	アルミ/木	アルミ	窓なし/木	アルミ	窓なし/アルミ	窓なし/木/アルミ/複数
		色	黒色、茶色系統	茶/窓なし	茶/窓なし	茶/シルバー	茶/シルバー	茶/シルバー	窓なし/茶	茶	窓なし/茶/黒	窓なし/茶/シルバー/白/複数
	2階窓周り	意匠	伝統的様式を基本	格子/窓なし/窓なし	窓なし/窓なし	窓なし/格子	窓なし/手すり	窓なし/手すり	窓なし/手すり	窓なし/手すり	窓なし/戸袋/窓なし	窓なし/手すり
		素材	周囲の町並みと調和した落ち着いた材質感のあるもの	窓なし/窓なし/鉄	窓なし/木/窓なし	窓なし/木	木/複数	窓なし/アルミ/木	窓なし/鉄/複数	窓なし/アルミ/窓なし	窓なし/窓なし	窓なし/窓なし/アルミ
		色	黒色、茶色系統	窓なし/窓なし/黒	窓なし/茶/窓なし	窓なし/茶	茶/窓なし	窓なし/茶	茶/窓なし	窓なし/茶	窓なし/茶/窓なし	窓なし/窓なし/茶



表3 助成基準一覧表

	江戸期	明治期	大正期	昭和前期	昭和後期・平成
町人地ゾーン	瓦葺きの入母屋 木製のサッシ 鉄製の格子  漆喰 木製の格子戸	瓦葺きの切妻 木製のサッシ 鉄製の格子  漆喰 アルミ製の格子戸	瓦葺きの切妻 アルミ製のサッシ 木製の格子  漆喰 木製の格子戸	スレート葺きの切妻 アルミ製のサッシ 木製の手すり  吹付・サイディング 木製の格子戸	陸屋根 アルミ製のサッシ アルミ製の手すり  吹付・サイディング 木製の戸
武家地ゾーン	瓦葺きの切妻 木製の格子 窓回り意匠なし  漆喰 木製の戸	瓦葺きの切妻 アルミ製のサッシ 窓回り意匠なし  漆喰 アルミ製の格子戸	瓦葺きの切妻 吹付・サイディング (※漆喰風仕上げ)  アルミ製の格子戸 アルミ製のサッシ 木製の手すり	瓦葺きの入母屋 アルミ製の格子戸  漆喰 アルミ製のサッシ アルミ製の格子	瓦葺きの切妻 アルミ製のサッシ アルミ製の手すり  吹付・サイディング (※漆喰風仕上げ) アルミ製の戸

付・サイディング等の新素材や技術を用いて漆喰風を再現した外壁仕上げも可とする。」とする。さらに、「出入り口は木製の戸を推奨する。窓は木製サッシを推奨する。また、出入り口、窓ともに木製を模した茶のアルミ製も可とする。窓周り意匠を設ける場合は、鉄製又は木製の格子を推奨する。」と提案する。

【武家地ゾーン】江戸期、明治期、大正期、昭和前期、昭和後期および平成に建てられた建築物の助成基準として、「屋根は瓦葺きの切妻または入母屋を推奨する。但し、昭和前期以降はスレート葺きや看板建築、陸屋根も可とする。」とする。また、「外壁は漆喰仕上げを推奨する。他に、吹付・サイディング等の新素材や技術を用いて漆喰風を再現した外壁仕上げも可とする。」とする。さらに、「出入り口は木製の格子戸または戸を推奨し、窓は木製格子を推奨する。また、出入り口、窓ともに木製を模した茶のアルミ製も可とする。窓周り意匠を設ける場合は、木製または鉄製の格子を推奨する。」と提案する。

## 5. 総括

本研究では、竹田城下町地区に着目し、建築年代が特定できる建築物を対象にした現地調査の結果を基に、各年代のデザインコードを抽出した。また、これらのデザインコードに即した助成基準を提案した。

しかし、建築物に関する基準のみで広告物などの工作物に関する基準は明らかになっていない。

さらに、昭和期以降に高割合で出現した外観構成要素については、「竹田市史跡等環境保存条例に基づく保存基準」(1979)・「竹田地区街並み形成景観・修景ガイドライ

ン」(1997)の影響も考えられる。そのため、各基準の策定年と建築物の建築年や改修年を考慮した詳細な建築物の外観構成要素の調査を行うことが今後の課題であると考える。

謝辞

本研究にご参加いただいたすべての方々に対し、心より御礼申し上げます。特に、竹田市および大分県土木事務所の皆様には、現地調査や資料提供において多大なるご協力をいただきましたこと、深く感謝いたします。

## 【補注】

注1) 本研究におけるデザインコードとは、一定地域のまちなみ景観を構成する建築物の形態・意匠である「屋根」・「外壁」・「出入り口」・「窓」の要素に見出せる共通のデザインと定義する。

注2) 竹田修景ガイドラインには、修景整備モデルの例として、勾配屋根(切妻、入母屋)の屋敷型建築物、町屋型建築物のイラストが明記されているが年代ごとの修景モデルは明記されていない<sup>4)</sup>。

注3) 竹田修景ガイドライン(1997年)<sup>4)</sup>、竹田地区街並み環境整備方針策定書(2001年)<sup>7)</sup>による文献調査と竹田城下町地区内で新築された建築物の建築計画概要書より特定できた建築年代を利用する。

注4) 現在の敷地が明らかに異なる建築物を対象外とした。

注5) 表1の項目⑦の出入り口の色は、1階窓の色と同じとする。

## 【参考文献】

- 文化庁(2021.3)「伝統的建造物群保存制度の実務手引き」
- 林直孝、浅野聡、森河奨(2015.9)「歴史的市街地における建築物の修景事業に対する助成制度に関する研究-東海4県の景観行政団体を対象にして-」日本建築学会計画系集, vol. 80, No. 715
- 台東区役所(2022.4)「谷中地区景観形成ガイドライン」
- 竹田市(1997)「竹田地区街並み形成景観・修景ガイドライン」
- 竹田市(2016.3)「竹田市景観計画」
- 後藤大輝、姫野由香、清川智裕、長弘颯太郎(2024.8)「建築物の改築に伴うガイドライン策定に関する研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集(関東), F-1分冊, pp. 177~180
- 竹田市(2001.1)「竹田地区街並み環境整備方針策定書」

\*大分大学大学院工学研究科博士前期課程

\*\*大分大学理工学部理工学科建築学プログラム・准教授 博士(工学)

\*\*Graduate Student, Oita Univ

\*\*Associate Professor, Div. of Architecture, Dept. Of Science and Technology, Faculty of Science and Technology, Oita University, Ph.D.